

## 消費者教育教材「たいせつなくれよん」活用状況アンケート結果

## 【実施時期】

令和2年8月

## 【対象数】

302（幼稚園65か所、保育所145か所、認定こども園59か所、市町村等33か所）

## 【回答数】

133（幼稚園・保育所・認定こども園109回答、市町村等24回答）

## 【結果】

（複数回答可）

① 活用 状況	今年度 7月末まで	保育士・教諭が活用	81
		地域のサークル等が活用	1
		上記以外の活用	6
		活用実績無し	45
	今年度8月以降	活用予定あり	102
活用予定無し		30	
② 対象 年齢	年少が適切	60	
	年中が適切	98	
	年長が適切	89	

## ①活用状況

## 【年度前半の具体的な活用状況】

- ・活用実績ありの回答が88件、実績なしが45件。活用実績なしのうち、8月以降活用予定ありが23件であった。
- ・活用するタイミングについては、定期的にはなく、物を使用する前後や持ち物の管理ができていないとき等、園児の様子を見ながら適切なタイミングで活用するという回答が多かった。

（主な具体的な回答）

- ・クレヨンを使う前やクレヨンの落し物があったとき等タイミングを見て活用
- ・降園時等、園児が集合した時に見せている。
- ・2～3か月間隔をあけて繰り返し読み聞かせをしている。
- ・くれよんを使う時や、箱の中身が乱れてきた時などに読んでみんなで考える。
- ・子育て支援センターや図書館に設置し、貸出に対応する。
- ・啓発講座等で活用する。

## 【年度後半の活用内容】

## 【保育士・教諭が活用】

- ・物を使用する前後や持ち物の管理ができていないとき等、園児の様子を見ながら適切なタイミングで活用する。

（主な具体的な回答）

- ・絵画や制作活動時、大掃除前等のそれぞれのポイントで、子供たちと考えながら身近なものへの愛着や大切に扱おうとする気持ちを育みたい。
- ・各クラスで繰り返し紹介していく予定
- ・子供の様子を見て活用する。
- ・新学期が始まった時、持ち物の補充等をしてもらった後なので、大切に使うよう話をするために活用する。
- ・進級時や新学期、くれよんの箱の中が乱れてきた時などに読み聞かせ、ものの大切さや、片付けの大切さを考え、話し合う。
- ・夏休み明けのきれいな状態のときに読み聞かせる。

## 【上記以外の活用】

- ・啓発講座等で活用する。
- ・町立図書館読み聞かせ等イベント内にて活用予定
- ・図書館のおはなし会での使用・館内展示など

### 【活用予定なしの理由】

#### 【保育士・教諭が活用】

- ・教材の利用はしていないが、学んだことを生活の中で意識できるよう取り組んでいる。
- ・きれいに片づけられるようになったため
- ・実際に遊んでいる時に具体物を使って教えている。

#### 【上記以外の活用】

- ・幼児等を対象に啓発講座等の実施予定がないため

### ③教材について

- ・適切な対象年齢については、年中が最も多く、次いで年長、年少という順であった。
- ・クレヨンという園児にとって身近の物を題材にしたことが、親近感を持って、物語を自分のこととして捉えられるので良かったとの評価が非常に多かった。また、読み聞かせ後、園児たちが自発的に、「きれいに並べないといけなね。」等と意見を交わしていたり、自分のクレヨンの状態を確認しきれいに並べなおす姿が多く見られたとの声が多かった。

#### (主な具体的な回答)

- ・紙芝居を読んだ後「みんなのクレヨンはどうかな？」と声掛けしクレヨンを確認。バラバラになっていた子は、自分で直して「覚えとこう。」と言っていました。クレヨンだけではなく、他の物も大切にしたり、きれいにしておくことが大事だと伝え、ロッカーのお道具箱、服などを自分で見直していました。
- ・どの年齢に対しても使用できる教材であり、子供たちが日々使っている身近な「クレヨン」を通して、「ものを大切にすること」が描かれており、様々な問いかけにも答えることが出来、集中して見ていました。
- ・子供たちにとって身近なクレヨンを大切にするという内容で、すぐに実生活で意識してもらえるのでは
- ・集中して聞くことができていた。子供に問いかける場面では、「きれいにならべる」「バラバラになってる」「〇色が無い」など発言も多く、反応も良かった。
- ・物語を通して子供たちに感じてほしいことや伝えたいこと、身に付けたい力などがわかりやすく書いていたため、子供たちに知らせやすかった。
- ・親しみやすい内容だった為、興味を持って見たり、保育者からの問いかけに対して積極的に発言する姿が見られた。
- ・3歳児クラスでは、8月の時点では、なぜクレヨンを並べたほうが良いかやどの色が無いなど、理解が難しい子も半分くらいいた。自分専用のクレパスを持つのは3歳児クラスからの為、1年間を通し繰り返し読むことで、考え、理解し、行動に移すことができると思うので、活用していきたい。
- ・4歳児クラスでは、折れたり短くなったりしたクレヨンの収納方法等、具体的に絵にしていることで子供たちにも伝わりやすく、「僕のクレヨンぐちゃぐちゃになってるかも」等自分のクレヨンを見直そうとする姿が見られました。
- ・5歳児クラスでは、乱れているクレヨンを見て「並べやなあかんのに」や「色わからんで」と発言したり、自分のクレヨンケース内が乱れていることに気づき、そっと片付け始めた子が数名見られました。
- ・幼稚園教育要領に沿った、身の回りのものを大切にすることをテーマの紙芝居なので、教師が子供たちの様子を見ながら1つの教材として使いたい
- ・特に描画活動の前に活用したときに、子供自らクレヨンをケースにきちんと片付けようとする姿が見られました。内容も分かりやすく、片付けの際に子供が「ちゃんと片付けなあかんなね」等と言っている場面もあり、ものを大切にしようという気持ちが持てたようです。
- ・多くの子供が1度は思い当たる経験が基になっているので、子供達も実践に即つながり、物を大切にすることの入り口には適していると思う。

### ④より幅広い活用につなげるための提案・アイデア等

- ・新品を大切に使用していた子も、慣れてくると扱いが雑になってきだすので、その様な時に紙芝居を通して大切に扱えるよう知らせる。
- ・新学期に改めて物を大切にすることを知らせるようにしたり、持ち物の名前が自分の名前になっているか等確認する機会を持ち、その際に読み聞かせをする。
- ・親子の参観の時など一緒に見て話す。家での取り組みのきっかけにする。
- ・低年齢児にも理解できるようにペープサートにして活用
- ・入園時や進級時に読み聞かせ、物の大切さを知ってもらう。
- ・読み聞かせの後、自分のロッカーに置いている荷物を確認し、整理整頓する。